

報 告

東京キャンパスにおける遠隔授業実施後のアンケート調査結果について

○山口顕秀*1 薬師寺徹*1 伊藤陽寿*1

キーワード：対面授業、遠隔授業、同時双方向、オンデマンド型、ハイブリッド型

1 背景

本学情報教育センター東京分室では薬師寺、伊藤、山口が他大学の事例を参考に本学における遠隔授業の在り方を検討^{註1}し、令和2年度、令和3年度はその検討に基づき遠隔授業^{註2}を実施している。今回は実施した授業形態に関する振り返りのため、東京キャンパスの学生 549 名を対象にアンケートを行った。その結果を報告する。なお、回答数は 535 名である。

2 実施概要

令和3年度後期開始前の9月27日、28日、29日、30日の学年別ガイダンス時にガイダンス出席者を対象に実施、GoogleFormsを利用して東京キャンパス在籍の9割以上の学生に回答してもらった。

3 対象の属性

遠隔授業について回答してもらう前に、出身国・地域、年齢、学年について回答してもらった。

東京キャンパスでは中国出身者、ベトナム出身者、ネパール出身者が出身者が多い上位3か国となっており、回答数もそのようになっている（図1）。図2は人数を割合で表示したものである。

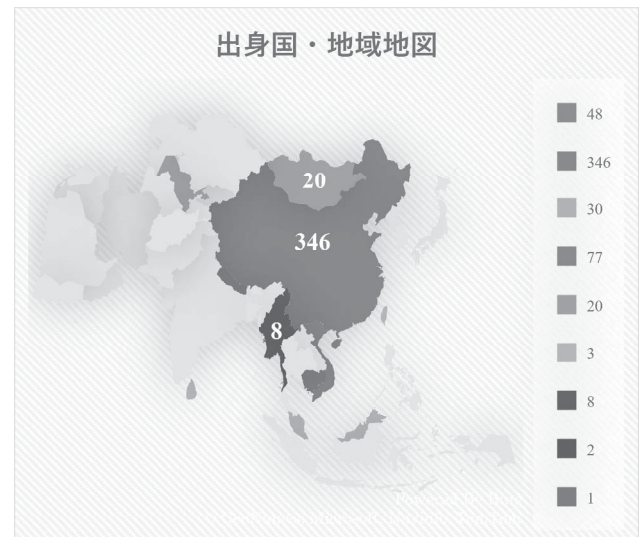


図1 出身国・地域地図

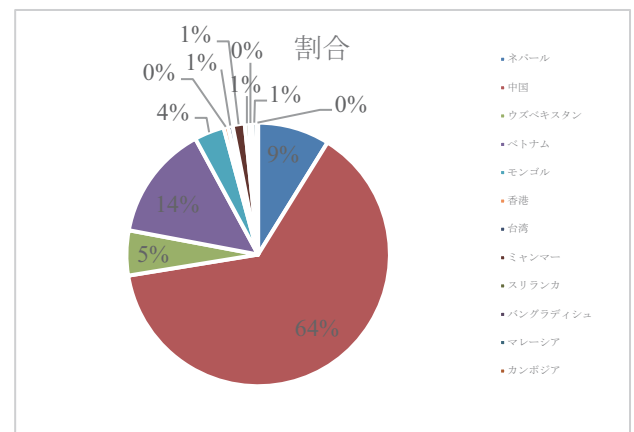


図2 出身国・地域割合

*1 至誠館大学 情報教育センター

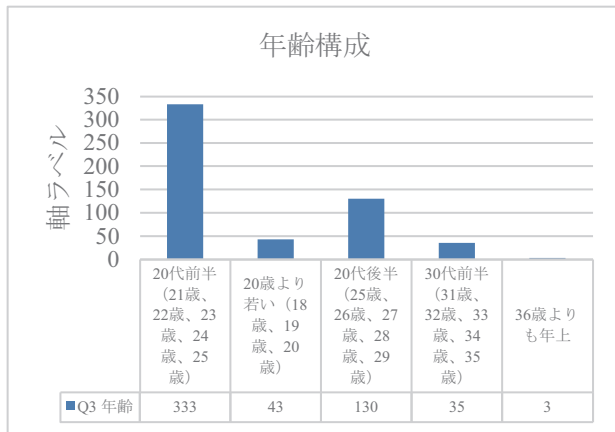


図3 年齢構成

図3は回答者の年齢構成である。一般に本学に留学する私費留学生は日本語学校や専門学校出身者のため、年齢構成が本学本校キャンパスや他の大学のそれよりも高くなる傾向にあるが、近年は平均年齢が下降傾向にある。

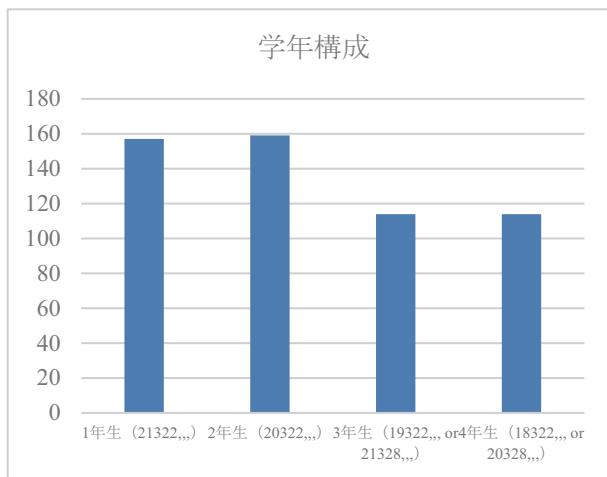


図4 学年構成

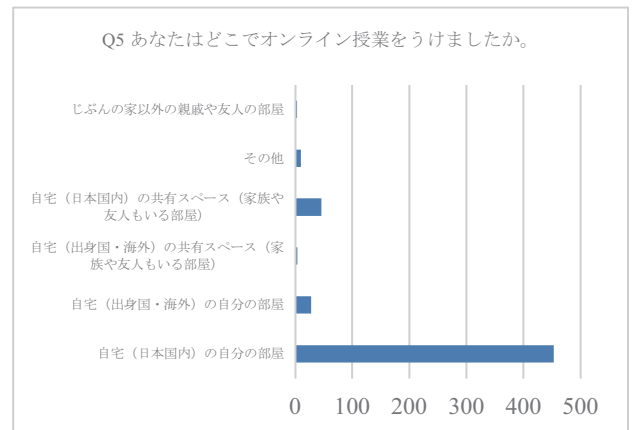
図4は学年構成である。特定の学年の回答率が著しく他と異なることはなく、概ね、9割以上の回答を得ている。

4 遠隔授業について

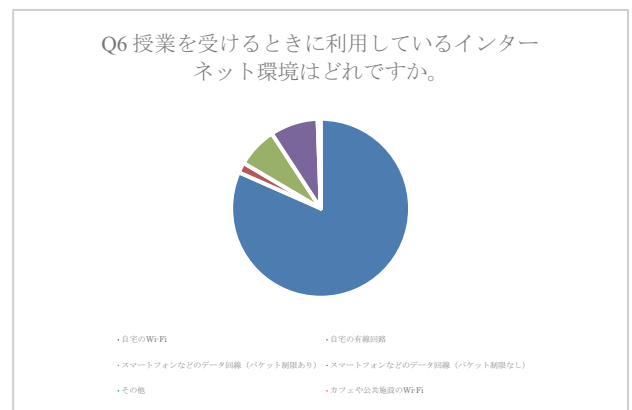
東京キャンパスにおける遠隔授業に関する質問の回

答は以下の通りである。

「Q5 あなたはどこでオンライン授業をうけましたか。」の質問では「自宅（日本国内）の自分の部屋」が最も多く、「自宅（日本国内）の共有スペース（家族や友人もいる部屋）」、「自宅（出身国・海外）の自分の部屋」が続く。学習機があるなど、どの程度学習に適した環境かまではこの質問だけでははっきりしない。



「Q6 授業を受けるときに利用しているインターネット環境はどれですか。」

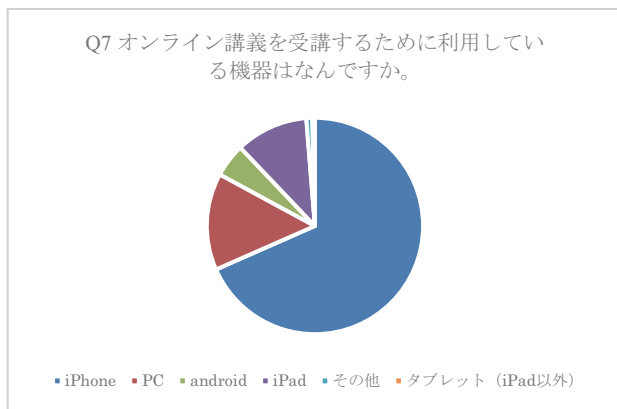


自宅のWiFi	444
自宅の有線回線	10
スマートフォンなどのデータ回線（パケット制限あり）	40
スマートフォンなどのデータ回線（パケット制限なし）	47
その他	2

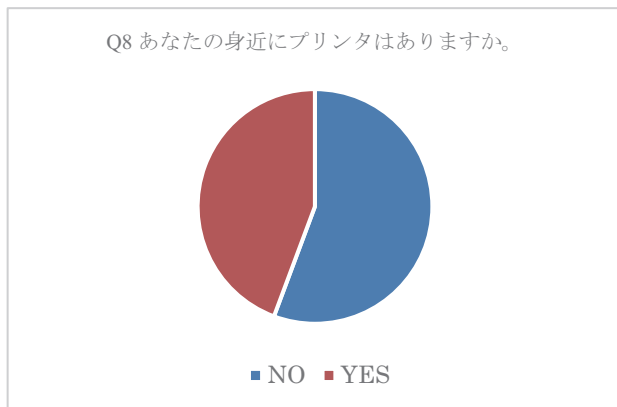
ネット環境の質問では「自宅のWiFi」が最多とな

り、先の質問への回答（自宅の自室で受講）と整合的である。一方で、「スマートフォンなどのデータ回線（パケット制限あり）」という回答が1割弱存在し、①環境が講義受講上万全ではないこと、②パケット制限に対する支援の必要性が示唆される。

「Q7 オンライン講義を受講するために利用している機器はなんですか。」では「iPhone」が最も多く、次いで「PC」が2割弱であるが、スマートフォンやタブレットを利用した受講が主であることが観察される。画面の大きさがあまり期待できないことを考えると、資料の提示方法に課題がある可能性がある。また、リアルタイム同時配信よりも、オンデマンド方式の方が受講はしやすい可能性がある。



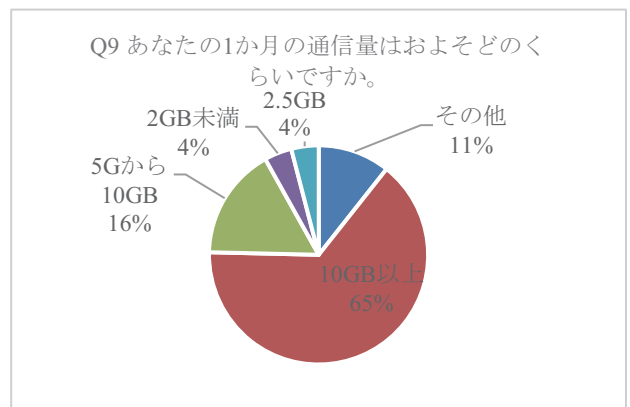
iPhone	372
PC	79
android	27
iPad	59
その他	5
タブレット (iPad以外)	2

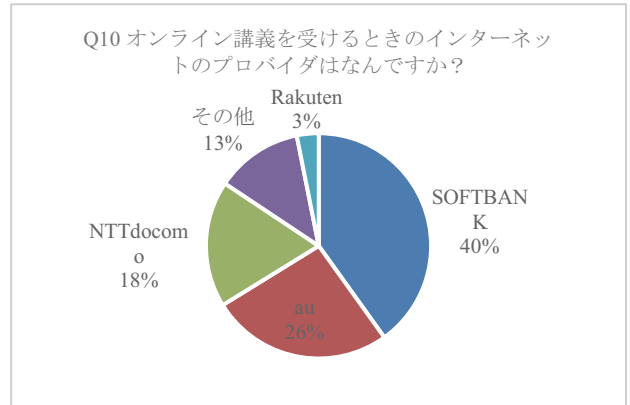
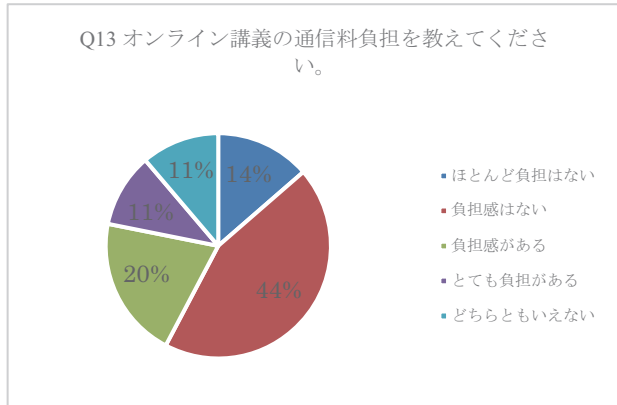


NO	303
YES	241

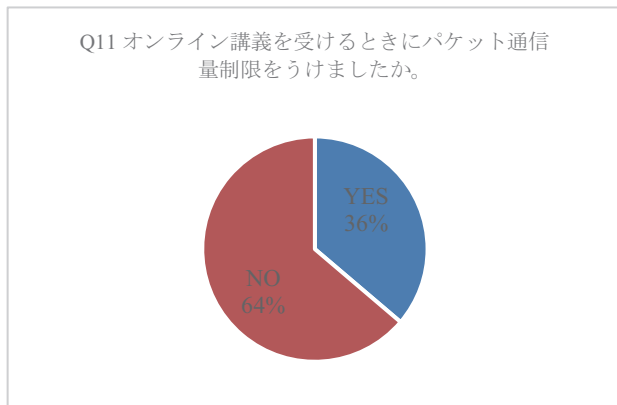
「Q8 あなたの身近にプリンタはありますか。」では6割近くの学生が資料を紙で気軽に利用できる環境にない、とも結論付けられるが、①そもそも紙ベースで資料を用意する必要があるか、②身近にコンビニがあり、大手コンビニではデータのプリントサービスが充実していることを考えると身近にないことが学習環境として明確に欠点であるとまでは言えない可能性がある。

「Q9 あなたの1か月の通信量はおよそどのくらいですか。」では「10GB以上」が最も多く、ついで「5Gから10GB」が多くなっている。私費留学生は母国との連絡も通信量の制約の下で行っているため、遠隔授業が通信量の制限を圧迫している可能性がある。実際このことは「Q13 オンライン講義の通信料負担を教えてください。」ではおよそ1/3が「負担感がある」、「とても負担感がある」と回答しており、「負担感はない」、「ほとんど負担はない」を足した割合が、大規模なデータ通信量利用者の割合と一致していないことからもうかがえる。一方でオンラインゲームに興じるものも多いため、一概に遠隔授業が主要因、とまでは言えない。



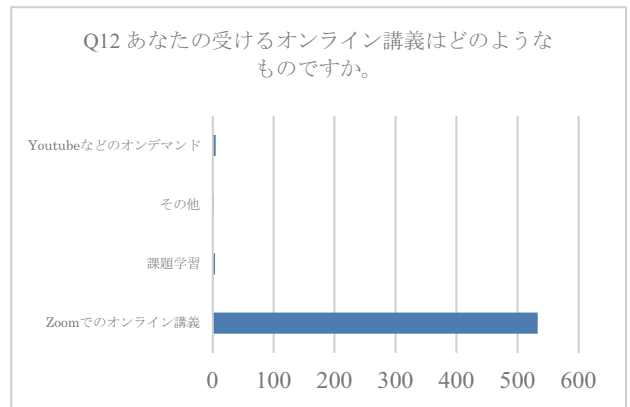


「Q11 オンライン講義を受けるときにパケット通信制限をうけましたか。」に対して、「YES」が全体の1/3強との回答であり、もともと大容量や無制限でデータ通信利用ができる契約をしていたものとそうでないものとの間で回答に違いが出たものと考えられる。

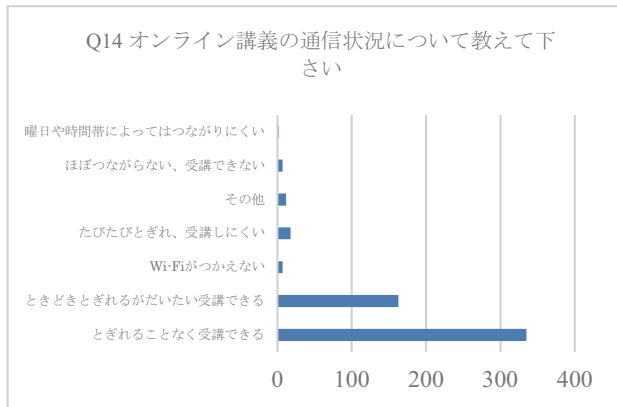


「Q10 オンライン講義を受けるときのインターネットのプロバイダはなんですか。」では、大手携帯電話会社が多く、「その他」に含まれるであろう MVNO（仮想移動体通信事業者）への契約の変更など、遠隔授業を安価に受けやすい環境を選択するという志向はあまり観測されなかったことが示唆される。

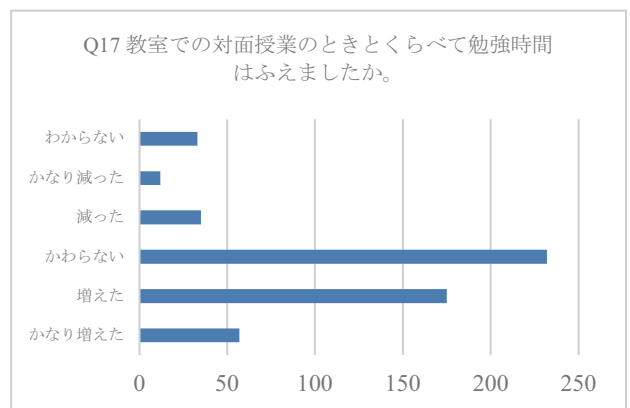
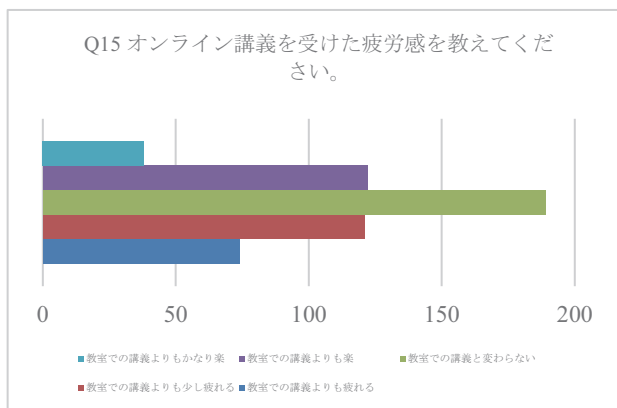
「Q12 あなたの受けるオンライン講義はどのようなものですか。」では「Zoomでのオンライン講義」が最多となっている。



これは「Q7 オンライン講義を受講するために利用している機器はなんですか。」への最多回答（スマートフォンが主）を考えると、受講環境への配慮の点で課題があるかもしれない。「Q11 オンライン講義を受けるときにパケット通信制限をうけましたか。」や「Q13 オンライン講義の通信料負担を教えてください。」への回答を考えると、山口、薬師寺、伊藤（2021）でみたように「主に Zoom 利用」との判断は、他に選択肢がなかった事もあるが、リアルタイム配信形式としては結果として負担が比較的少ないものを選択したといえるかもしれない。これは「Q14 オンライン講義の通信状況について教えてください。」からも補強される。「Q14 オンライン講義の通信状況について教えてください。」では 9 割近い学生が「受講できる」と回答しているからである。



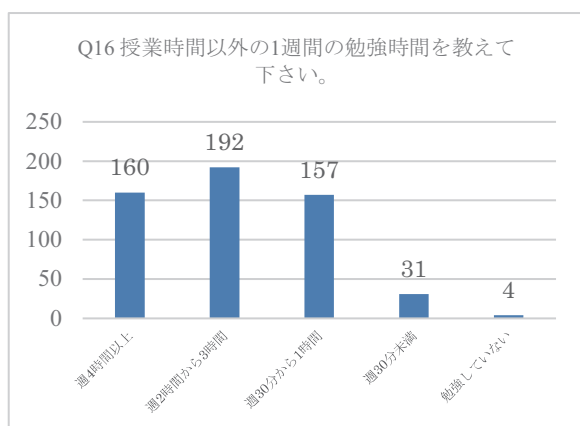
「Q17 教室での対面授業のときとくらべて勉強時間はふえましたか。」では各科目で各回の提出課題が増えたせいか、「増えた」、「かなり増えた」との回答が4割近い。巨視でみると学生の実際の負担や心理的な負担感が増したものと見えるが、自分の担当科目での学習の達成度という微視で考えると講義のみを一方向的に行うには不安があるため、どうしても課題が巨視にも微視にも過重になりやすい傾向が見て取れる。

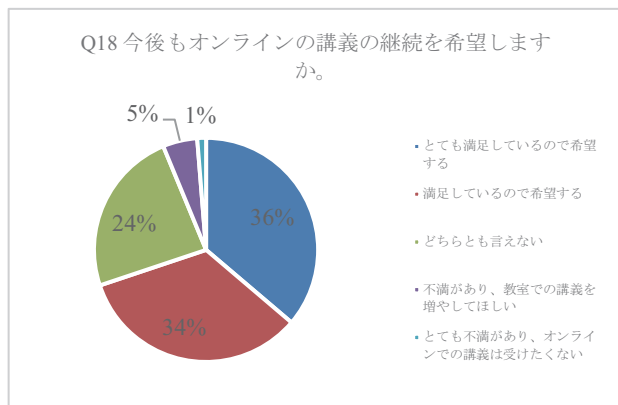


「Q15 オンライン講義を受けた疲労感を教えてください。」ではオンライン講義を「疲れる」と回答している学生も多くオンライン講義の課題といえるが、「楽」、「かなり楽」と回答している学生も少なからずいる。これは対面授業（教室での講義）の場合、時間までに通学することや通学時間が加味されているものと考えられる。

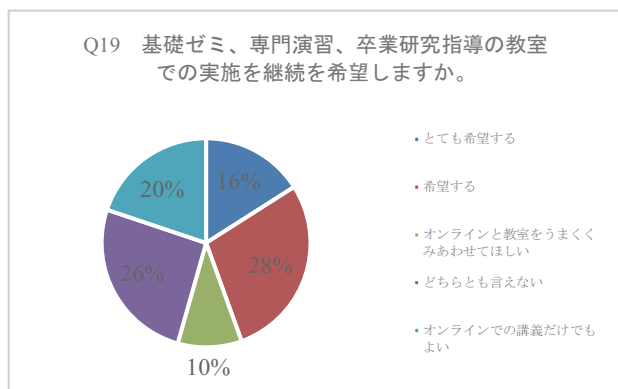
「Q18 今後もオンラインの講義の継続を希望しますか。」では「とても満足」、「満足」で7割を超え、「不満」や対面授業を増やすよう求める回答もあるが、総じてオンライン講義が継続することを期待する声の方が大きいことが示唆される。「Q16 授業時間以外の1週間の勉強時間を教えてください。」や「Q17 教室での対面授業のときとくらべて勉強時間はふえましたか。」での回答を加味すると、オンライン講義前（令和元年度まで）には学習に向き合わない学生が多かったという私立文系大学に多いいわゆる「Fランク校」と言われる大学で問題になる点が浮き彫りになったといえるかもしれない。

「Q16 授業時間以外の1週間の勉強時間を教えてください。」では「週2時間以上」が6割を超えるが、総じて学習時間が長いわけではなく、課題といえる。





「Q19 基礎ゼミ、専門演習、卒業研究指導の教室での実施を継続を希望しますか。」への回答はそうした懸念へ別の形での表れと言えるかもしれない。実際、ゼミナール形式であるにも関わらず、2割の学生がオンライン形式を希望し、「併用」を望むものもかなりいる。一方で講義科目よりは対面形式を希望する声もある点は救いといえるかもしれない。



5 振り返り

山口、薬師寺、伊藤（2021）では短期間に複数の検討を重ね、遠隔授業を成り立たせることに注力され、実態調査までには至らなかったが、今回、簡易とはいえアンケートを行い、講義を提供する「供給側」の課題と講義を消費する「需要側」の実態を垣間見ることができた。課題と実態は本学東京キャンパス固有のものもある一方で、普遍的に他のキャンパス、他の大学でも散見されるものもある。2021年10月には緊急事態宣言も全面解除され、各大学で対面形式の検討・再開がみられるが、またいつ宣言の再発出が必要な感染状

況になるかわからない。想定される「次回」に備え需要側の実態に即し、需要側の抱える課題に対応しながら、供給側の改善に努めたい。

質問項目は以下の通り。

- Q1 出身国・地域
- Q2 学籍番号となまえ
- Q3 年齢
- Q4 学年構成
- Q5 あなたはどこでオンライン授業を受けましたか。
- Q6 授業を受けるときに利用しているインターネット環境はどれですか。
- Q7 オンライン講義を受講するために利用している機器はなんですか。
- Q8 あなたの身近にプリンタはありますか。
- Q9 あなたの1か月の通信量はおよそどのくらいですか。
- Q10 オンライン講義を受けるときのインターネットのプロバイダはなんですか。
- Q11 オンライン講義を受けるときにパケット通信量制限を受けましたか。
- Q12 あなたの受けるオンライン講義はどのようなものですか。
- Q13 オンライン講義の通信料負担を教えてください。
- Q14 オンライン講義の通信状況について教えてください。
- Q15 オンライン講義を受けた疲労感を教えてください。
- Q16 授業時間以外の1週間の勉強時間を教えてください。
- Q17 教室での対面授業のときとくらべて勉強時間はふえましたか。
- Q18 今後もオンラインの講義の継続を希望しますか。
- Q19 基礎ゼミ、専門演習、卒業研究指導の教室での実施を継続を希望しますか。

[註]

・註1 詳しくは山口、薬師寺、伊藤（2021）参照のこと

と。

・註 2 令和 3 年前期より遠隔授業は同時双方向、オンデマンド型、対面を主とするハイブリッド型を実施している。ハイフレックス型とも呼ばれるハイブリッド型はゼミナール・演習形式の科目以外は受講場所を学生に委ねている。

[参考文献]

- 1) 石川さと子, 井上賀絵, 登美斉俊(2021)「新型コロナウイルス禍における遠隔授業への対応と対面授業実施に向けた取り組み—アンケート結果を交えたふり返り」『薬学教育』 5,
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jjphc/advpub/0/advpub_2020-077/_pdf-char/ja (アクセス日 2021.11.13)
- 2)神戸大学「神戸大学の遠隔授業に関する学生アンケート調査結果について」
<https://www.kobe-u.ac.jp/documents/info/usr/press/20201127-01.pdf> (アクセス日 2021.11.13)
- 3) 白百合女子大学FD推進委員会「2020年度前期「遠隔授業に関する状況調査アンケート」の実施状況」
https://www.shirayuri.ac.jp/news/2020/usftr000000706b-att/fdenquete_2020_01.pdf (アクセス日 2021.11.13)
- 4) 獨協大学 FD 推進委員会 (2021)「2020 年度遠隔授業に関するアンケート」結果報告
<https://www.dokkyo.ac.jp/information/2021/20210329004351.html>
(アクセス日 2021.11.13)
- 5)山口, 薬師寺, 伊藤 (2021)「パンデミック下での遠隔授業の導入—至誠館大学東京キャンパスでの事例—」『至誠館大学研究紀要』 8, 173-178